

経営学は「生きている学問」。ここから、未来への可能性がグリーンとひろがる。

カリキュラム 成功のコースは1つじゃない。

4年間の学びのSTEP		1年次	2年次	3・4年次
基本専門科目	経営学	基礎経営学 経営史総論 基礎会計学	入門演習	経営科学概論 基礎演習
				演習Ⅰ 演習Ⅱ
			経営管理総論 経営財務論	経営戦略論 経営組織論 国際経営論
			経営学総論 国際経営史 各国経営事情 (Ⅰ・Ⅱ)	労務管理論 生産管理論 経営学特講 (Ⅲ・Ⅳ)
			企業論 日本の経営論 NPO経営論 日本経営史	企業倫理論 中小企業論 各国経営事情 (Ⅲ・Ⅳ) 経営学史
			会計学総論 原価会計論 情報会計論	財務会計論 税金会計論 公会計論
経営管理				
経営理論・歴史				
会計			環境会計論	管理会計論 税務会計論 国際会計論
商学・流通			マーケティング論 経営学特講 (Ⅰ・Ⅱ)	広告論 外国為替論 経営立地論
経営情報		情報処理概論 経営数学 経営統計学	経営情報処理 応用経営統計学	経営情報論 応用経営情報処理 経営システム分析
経済学		基礎経済学 経済史総論	ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策	国際経済学 日本経済論 産業組織論
法学		憲法	民法総則 会社法 国際法	財政学 金融論 国際貿易論
外国語			外書講読 初級ビジネス英語 ビジネス中国語	経済法 (独占禁止法) 労働法 政治学原論
キャリアトレーニング		キャリアトレーニング入門	キャリアトレーニング特別講義	債権総論 行政法総論 比較政治学
教養総合コースの分野		外国語・身体健康・情報処理基礎・人文科学・社会科学・自然科学・複合科学		

学びのスタイルはいろいろ。

3つの履修モデルを参考にしよう！

履修モデル：1 鋭い視点で経営全般を学ぶ ゼネラリストの養成

経営戦略論や国際経営論などを学びながら、新しい時代に適応した企業経営のあり方を探っていきます。問題解決能力や意思決定力を磨き、ビジネス・モデルを発見したいという人に最適な履修モデルです。

履修モデル：2 会計学を中心に学ぶ 会計スペシャリストの養成

経済の国際化が進行するビジネス社会の中で、公認会計士、税理士や企業財務の専門家に対するニーズが高まっています。このモデルでは企業経営を数値で分析・評価する会計のスペシャリストを育成します。

履修モデル：3 経営科学・経営情報を学ぶ IT時代の情報能力の養成

IT（情報技術）は経営情報や経営資源を戦略的・有機的に統合し、フルに活用するために欠かせないものになっています。このモデルではビジネスと情報の関係を学び、IT時代に必須の情報リテラシーを身につけます。

ゼミで自ら学ぶ楽しさに出会う。

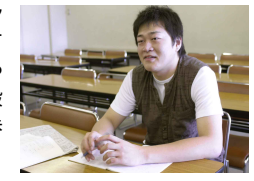
神戸学院大学経営学部では、指導教員のもと少人数で学ぶゼミナールを1年次から導入。自分の興味や将来の進路に合わせて、目的意識を持って学ぶことで、専門性が深まるとともに受け身でない勉強が楽しめます。特に実社会に即したテーマを探究する経営学では、ゼミナールでの学びが、社会人になったときに大きく生かされます。少人数なので、友人や教員との交流による人間形成にも大きな成果を生みます。

目標の税理士像は、ゼネラリストなスペシャリスト。



皆さん、税理士というと大量の税務書類を黙々と片づける…そんな地味な印象を持ってませんか？税理士の主な仕事は、依頼者から経営に関する様々な相談事を聞く。それに応じた適切な助言を行う。つまり顧客に信頼されることが大切で、とてもヒューマンな職業なんです。狭い知識だけでは通用しない世界ですから、資格

勉強と並行して経営に関する広範な教養を身につけようと努めています。特にゼミでは、ユニクロをはじめ様々な企業の経営戦略を少人数で追究していて、文章力やコミュニケーション能力も同時に高められます。めざすは、経営全般に精通した税理士。一步一步がんばります。



怒る？ それとも励ます？ 真のリーダーシップとは！？



会社といっても結局は人の集まり。いろいろな個性を持った人間が働いていて、トップは社員を叱咤し、時にはヨイショして経営してる訳ですね。こうした「人事管理」が私の研究テーマ。でも、「俺についてこい！」的なワンマン社長もいれば、「社員さんのおかげです」なんてすごく謙虚

な社長もいる訳で、企業によってその内実はまったく違う。深いテーマです。そもそも人事管理に興味を持った理由は、新聞会というクラブの会長をしているから。いい新聞をつくるには皆の協力が必要で、常にリーダーシップが試されています。人間関係の極意を、このゼミでしっかり学びたいと思います。



ゼミ研究 テーマ例

「新日本の経営を模索する」「女性の労働環境は改善に向かっているか?」「阪神タイガースの経営の舞台裏」「ホンダのシビック開発」「グローバル化と国際会計基準～世界の中の日本企業」「Eコマースはもうかるのか?」

はじめは難しいかも。でも知るとドンドン引きつけられる。

大学で何を学ぶのかわからない。どう学べばよいのか。これは大学に入ろうとする人がみな持っている不安です。神戸学院大学経営学部では、高校までとは異なる大学のスタイルに早く慣れるよう、自分の興味がある分野を早く見つけられるように、1年次から経営学の基礎科目を用意。具体的な事例や新聞などで取り上げられている身近な問題を紹介しながら、経営の基礎をわかりやすく学べるようにしています。

基礎経営学

初めて経営学を学ぶ学生に経営学の面白さを論じる。

井上 薫 教授

経営学は企業の行動全般について、特に企業内部の組織と価値の流れを大きな基本問題としています。基礎経営学は、こうした企業を取り巻くいろいろな興味深い問題について、ごく初歩的なものから最先端の内容まで広くその基礎的知識を体得することをねらいとしています。

情報処理概論

コンピュータはどのようにして動くのか。

石川修一 教授

ワープロ、Eメールそしてテレビゲーム、すべて身近なものばかりですが、これらの正体はコンピュータ・プログラムです。そのプログラムがコンピュータの中でどのように動くのか。インターネットの通信はどのように行われるのか。コンピュータやネットワークの仕組みを学びながら、知識を増やしていきます。

基礎会計学

ビジネスの羅針盤、会計のライセンスを目指す。

大野俊雄 教授

大航海時代の冒険商人たちはビジネスの計器操縦術である簿記・会計学の修得に熱心でした。貿易取引を成功に導くためには「ビジネスを舵取りするための羅針盤」である会計記録が必要だったのです。デフレ下の現代ビジネスにも最新版会計の基礎を学ぶことの重要性は同じです。